

We're OK! の居場所づくり part2

～教室をホームに 学級集団をチームに～

教室に『競争』をもち込み、不可や縦の関係で学級づくりをした末路は、教師離れ、授業妨害、逸脱行動、そして学級崩壊です。そうならないように、『協力』で学級づくりを進めましょう！

『協力』で互いに認め合い、助け合い、高め合う集団を目指します

まずは、子どもの様子をじっくりと観察することから始めます。口を出さず、手を貸さず、子ども一人一人を、または集団全体や子ども同士の関係をいろいろな角度から見ます。そして、子どもが何を目的に行動しているのかを考えます。

そのとき、自分勝手にわがままな言動の子どもには指導しますが、全体の前では叱りません。その子のプライドを傷つけることなく、一対一でしっかりと話を聞き、その子の成長を見据え、その子の立場になって取るべき行動を具体的に教えます。

また、担任は、子どもが学級や友達のために努力しているところを見逃してはなりません。担任が期待していた望ましい子どもの言動を見つけたら、帰りの会や学級だよりで紹介するなど、実際の発言や態度を取り上げ、大いにほめて価値付けます。そうすることで、子ども自身が価値やよさを自覚し、さらにその価値を学級全体で共有することができ、周りの子どもにも好影響をもたらします。

子ども同士の関係が把握できたら、子ども一人一人の居場所を考えます

人は元来「所属欲求」を満たすために行動します。子どもも自分の居場所が見付かると安心して学校生活が送れます。学校や学級は、この所属感を満たした上で、自己肯定感や自己有用感の醸成に努めなければなりません。子どもは、自分が大切にされていると実感したときに、友達に対して支援の気持ちをもちます。

子どもに自分が必要とされているという実感をもたせるために、意図的に学級活動や授業で協働しないと達成や解決ができない活動を仕組みます。当番活動や係活動は、その基本であり、クラスのイベントや学年でのプロジェクト、学校行事等の実行委員でも「自分がやらないと活動が進まない」「自分がいないとみんなが困る」という自己有用感を育みます。このことは、子どもの「やりがい」につながります。

教師が教室をホームにするように環境を整え、子どもに「やりがい」を感じさせるために、学級集団をチームにする学級活動を考えてみましょう！

